

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 10	16	百日咳	↓ 0	2
RSウイルス感染症	→ 0	0	ヘルパンギーナ	↓ 154	189
咽頭結膜熱	↓ 22	23	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↑ 12	9
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓ 102	120	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 305	337	流行性角結膜炎(はやり目)	↓ 18	20
水痘	↓ 50	66	細菌性髄膜炎	↓ 0	1
手足口病	↓ 73	81	無菌性髄膜炎	→ 0	0
伝染性紅斑(りんご病)	→ 1	1	マイコプラズマ肺炎	↑ 2	0
突発性発しん	↓ 47	49	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↓ 1	4

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

感染性胃腸炎 : 菊池  
ヘルパンギーナ : 菊池、宇城

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	
熊本市保健所			15	28	55	5	25	1	14		40	1		17						1
山鹿保健所				2	22	3	1		4		4		*	*						
菊池保健所	1		4	31	62	8	2		11		34	4						1		
阿蘇保健所				2	5						1		*	*						
御船保健所					3	1							*	*						
八代保健所				3	24	7	8		4		9									
水俣保健所				2	3	5	4		1		2	3	*	*						
人吉保健所	4			5	31	3	1		2		11		*	*						
有明保健所				2	58	5	19		4		6	1								
宇城保健所			1	17	29	6	2		2		26	1	*	*						
天草保健所	5		2	10	13	7	11		5		21	2		1				1		
計	10		22	102	305	50	73	1	47	0	154	12	0	18	0	0	2	0	1	

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	10											3	1	5	1							
小児科定点年齢	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	0																					
咽頭結膜熱	22	1	4	7	4	2	2	1						1								
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	102	1		1	4	15	17	12	16	10	6	6	10		4							
感染性胃腸炎	305	6	35	32	34	16	33	24	22	14	14	9	39	7	20							
水痘	50	1		10	14	5	3	2	2	1	1	1										
手足口病	73	1	15	18	14	13	4	2	2	1	1	2										
伝染性紅斑	1							1														
突発性発しん	47	1	18	24	4																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	154		9	54	42	18	13	7	5		1	2	3									
流行性耳下腺炎	12					1	3	1	4		1	1	1									
眼科定点年齢区分	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	18											1			2	4	3	2	2	2	2	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	2					1					1											
クラミジア肺炎	0																					
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1		1																			

ヘルパンギーナに注意しましょう

ヘルパンギーナは「夏かぜ」の代表的な病気であり、ウイルスが原因で起こります。県内における今週の報告数は先週と比べてやや減少しましたが、菊池及び宇城が引き続き警戒レベルになっています。

ヘルパンギーナは主に乳幼児がかかり、突然高熱がでて、口の中に水疱や発赤が出し痛みを伴います。通常7日程度で治癒しますが、口の中の痛みなどから、食事や水分を十分にとれず、脱水になることもあります。合併症として、まれに髄膜炎や心筋炎が起こることがあります。

ヘルパンギーナにかかって、食事が取れない、頭痛や嘔吐、発熱が続く場合は早めに医療機関を受診してください。予防には手洗いが有効ですので、しっかり行って予防に努めましょう。

【予防のポイント】

- ・予防接種はありません。
- ・外から帰った後、食事の前、トイレの後などに手洗いをしっかり行うことが大切です。
- ・幼稚園、保育園や学校などの集団生活ではタオルを共用することは避けましょう。

百日咳～長引く咳には要注意!～

今週は百日咳の報告はありませんでしたが、定点あたりの報告数は3週間連続で全国の2倍以上と多くなっています。百日咳とは、特有の咳発作を特徴とする、百日咳菌という細菌に感染して起こる急性の気道感染症です。百日咳は子供の病気と思われがちですが、近年成人患者さんの報告数が増加し、2010年には全体のおよそ半分を占めました。また10～14歳の患者さんの割合も増えています。

成人では咳が長期間続きますが軽症で経過することが多いため、百日咳と気付かれないことがあります。しかし、菌は排出していますので、ワクチン未接種の新生児や乳幼児に対する感染源として注意が必要です。長引く咳を認める年長児や成人は、早めに医療機関を受診して適切な診断、治療を受けるように心がけてください。

【予防のポイント】

- ①定期予防接種:百日咳のワクチンは四種混合ワクチンとして、生後3ヵ月から接種できます。
- ②長引く咳を認める年長児や成人は、新生児や乳幼児に近づかないように配慮し、早めに医療機関を受診しましょう。
- ③咳エチケット:咳やくしゃみをするときは、ティッシュペーパーなどで口と鼻をおおい、人にかからないようにしましょう。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供: 熊本県健康福祉部 健康危機管理課